

授業科目	暮らしを支える看護	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	1 年次後期	1 単位	講義	30 時間
到達目標	1. 健康と暮らしを支える看護を理解する。 2. 看護が提供される多様な場を学び、看護の実際・役割について考える。 3. 地域・在宅看護に関する法と制度と施策について学び、暮らしと健康を守ることに結び付けて必要性を考える。 4. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントを学ぶ。					講師
						専任教員
授業計画						
1 回	1. レディネステスト 2. 地域包括支援センター、社会福祉協議会でのフィールドワーク オリエンテーション					
2～ 3 回	地域包括支援センター、社会福祉協議会でのフィールドワーク課題の明確化 ・1G8 名でフィールドワークの学びの視点を明確にする。					
4～ 9 回	地域包括支援センターでのフィールドワーク 1 日(90 分×3 コマ) 社会福祉協議会でのフィールドワーク 1 日(90 分×3 コマ) ・学校所在地管轄内の 1 市 4 町で、各 8 名の編成で初日、包括 4 名・社協 4 名に分かれて見学 ・翌日、同市町で包括・社協の施設を交代して見学					
10～ 11 回	地域包括支援センター、社会福祉協議会でのフィールドワーク学びの共有①まとめ ・1G4 名で GW、発表(地域の特性・ニーズ、あらゆる健康課題やライフサイクルの人々とは)					
12 回	地域包括支援センター、社会福祉協議会でのフィールドワーク学びの共有②発表(PP 等作成) ・1G4 名で GW、発表(地域の特性・ニーズ、あらゆる健康課題やライフサイクルの人々とは)					
13 回	健康と暮らしを支える看護① ・地域包括ケアシステムにおける看護の役割 ・自助・互助・共助・公助の意義と役割 事例演習 ・健康の保持増進・疾病に関わる看護 ・多職種連携、協働の意義と方法					
14 回	健康と暮らしを支える看護② ・家族を支える看護 ・事例で考える(小集団で GW、発表) ・レポート提出					
15 回	1. 看護が提供される多様な場・看護の実際と役割 2. 地域・在宅看護に関する法・制度・施策 3. 暮らしと健康を守る法・制度・施策の必要性 4. 地域での暮らしを支援するマネジメント 5. まとめ、確認テスト					
評価方法	修了試験 選択肢問題又は論述問題による筆記試験(100%)					
教科書	系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院					
参考書	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア					
備考	1. 『地域と暮らし』の講義内容の復習をすること。 2. 事前・事後課題を教科書・講義内容・配布資料より予習・復習をすること。 3. 個人・グループワーク、フィールドワークでの課題学習に取り組み、発表準備に備えること。					